

令和4年度
事業報告書

- (1) 学校目標
- (2) 教学改革計画
- (3) 学生募集対策
- (4) 外部資金獲得
- (5) 人事政策
- (6) 経費抑制計画
- (7) 施設設備整備計画
- (8) その他

(1) 学校目標

①学校スローガン

一致団結

「経営改善試みの1年目として、教育の質を低下させることなく事業収支の均衡を達成する為に、全教職員が心を一つに堅く結束し、個々においては視野を広げ業務に邁進する。」事を目標に事業運営にあたった。コロナ禍3年目の中で、生徒募集には苦戦したが、教育の質を下げることなく、社会に対する責任と生徒や保護者の負託に応える教育が出来た。

②目標達成のための優先課題と活動概要

a. 組織人事

(事業計画)

調理師専門学校の収支を考慮すると、退職などによる人員の補充は出来ない。その様な中で教育の質を下げることなく業務を運営するには、今までの組織体制や職掌に対する既成概念を一度リセットし柔軟な対応が求められる。令和4年度は試みの1年として、人事異動や職掌変更そして研教員力向上の研修を積極的に行い、マルチな調理師専門学校の教員の育成を行う。

(結果)

経営改善検討委員会の進捗状況を鑑みながら都度、次年度の組織体制をシュミレーションしながら検討を進めた。退職者が出たが、令和5年度に向けて教育力の低下を最小限に抑えた新組織に速やかに移行できた。

b. 学生募集

(事業計画)

調理師専門学校が収支均衡をはかるには、令和5年度の入学者数400名は必達の目標となる為、令和4年度の学生募集活動は最重要課題と位置付けて広報戦略会議の下、広報部と連携し全教職員が一致団結して目標達成に取り組む。

(結果)

令和5年度入学者数400名を目標に掲げ、広報部・広報企画部と連携を密にして、広報戦略会議で決定した政策を全教職員及び在校生スタッフ全体で全力を尽くして生徒募集活動に取り組んだが、目標数の達成には至らなかった。

(2) 教学改革

①中期計画に基づく実施計画

カリキュラム検討委員会への参加に関しては組織の大幅な改変を令和5年度に控え、実施を見合わせる事となった。また、教職員の勉強会は当初の予定から内容の変更はあったが、教える・伝えるを念頭に置いた勉強会（研修会）の実施により教職員の意識の改革につながった。

a. カリキュラム検討委員会への参加

令和5年度には組織の大幅な改変が予定されていたため次年度の準備を優先とし委員会の立ち上げはできなかったが、各科担当主事及び実習担当責任者が中心となり各科の特徴の明確化に努めた。

b. 教えるスキル・伝達する力を身に着け、向上させる勉強会の実施

スキルアップにて講義を行うには経費がかかり、予算の都合上困難と判断したが、学生対応を円滑に行うために対人スキル向上の為の研修や実習室（講義室）内のAVシステム操作の勉強会を実施した。教職員の意識の変化が伺えた結果が得られた。

②カリキュラム改革等

高度調理経営科の中国料理専攻の開講準備、加えて2年過程に『環境と食』という社会の変化に対応できる人材育成を目指し新たな視点の教科の開講に向け、カリキュラム変更を行った。また、実習教職員の人材交流を取り入れたことにより多面的な指導ができるようになるなど、教える技術のスキルアップにつながった。

③キャリア支援・就職支援

少子化により今後、人材の不足となる日本社会の中で、産学連携に意識を向けている企業との優先的誘導型指導を学校として取り組みサポート体制が出来た。

コロナの状況下、オンラインでの就職説明会などが増とは比較的ならず、対面にての印象を確認したい企業も以前同様あり、Wi-Fi環境の難しい状況も回避できたことにより、現状維持でした。

④学生支援・中途退学対策

入学時より生徒の動向を観察し、積極的にサポートする体制を整えてきた。担任のみ

に負担がかからないよう、メンタルヘルス担当と連携をするなど組織の構築を実施してきた。しかしながら生徒個々も様々な悩みや問題も多様化している。来年度は新しい組織にもなるので、より一層生徒と向き合った指導をしていきたい。

(3) 学生募集対策

①中期計画に基づく実施計画

体験入学の改革、メディア協力について意欲的に実施したが、参加人数獲得・歩留まりが上がらなかった。「実技技能試験」の実施については、体験入学に重点を置いたため実施しなかった。

a. メディア協力

テレビ番組の取材など積極的に協力した。

②体験入学・学校説明会等

担当より全4ジャンルマスターできるメリットに加え、ストロングポイントも合わせて説明。また、オープンキャンパスの回数・内容についても計画どおり実施し、高度調理製菓科の入学数増に繋がった。

(4) 外部資金獲得

①中期計画に基づく実施計画

人員不足の為、目途がたたず実施することができなかった。

(5) 人事政策

①組織編制・要員計画

実習職員の他ジャンルへのヘルプシステムは定着してきており、今後は職員個々の指導力をさらに向上させることで、学生に質の高い教育を提供していく。

教務職員の実習補助と実習職員の調理理論担当は、職員の減少を見据えた上での取り組みとならざるをえない。

座学で新規開講予定の環境と食、献立作成等に関しては、新たに数名の非常勤講師を採用する予定である。

②その他の取り組み

同窓生の交流サイト通して卒業生の現況把握を進め、今後の講師依頼等につなげるためにサイトの立ち上げを準備中。

(6) 経費削減計画

①中期計画に基づく実施計画

令和4年度中に以下の準備を進めた。

- ・相見積もり、業者との理解など、出来る限り社会全体物価高騰である為、慎重に対応した。
- ・手工は違うがイベント性のある企画をしたが、経費削減を念頭に計画。
- ・必要最小限とした。

(7) 施設設備整備計画

①中期計画に基づく実施計画

5号館4F・第12・13実習室(西洋)の排水溝整備は完了。耐用年数を超えている節義については今後の施設設備計画に具体的に加えていきたい。

(8) その他

①社会貢献・地域貢献活動

- ・西部子ども家庭支援センター

令和4年12月10日

- ・街の巨匠に学ぼう！子ども料理教室

「挑戦しよう！プロの技」のご案内

令和4年8月18日(木)

午前の部 9時30分～12時30分

午後の部 1時30分～4時30分

いずれの活動も豊島区からの依頼である。地域子どもたちとその保護者と連携し、満足の結果を得ることができた。